THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年六月十九日　毎土曜日發兌　第貳拾七號

此の繪の說明ハ本紙中よ在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目壹拾番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十七號目次

●官報●女學叢誌○夫婦の關係●中外新報十四件●學藝叢談○カリー氏幼兒敎育學○理學一斑●英語の栞附羅馬字話し●列女傳○漢陽の節婦王氏〔表壽傳〕安藤爲定の妻龜子○鷲尾經春の妹●和書講義○つれ〳〵草●稗史小説○英國小説剪燈情話第二回續●女紅○八丈縞織やう○白髮を拔き再び生へざる法○夏季米に虫の生せざる法○酢醬油の黴を防ぐ法○口中の臭みを除く法○練珊瑚珠の秘傳法○澁の衣服に付たるを落す法●御伽草○貧富同日談○燈謎●古今雜話日本女禮のあらまし○置古し●金言摘錄●群芳詞苑○詩歌發句數件○閨秀新品○數學答式○新題○數學題●寄書○幼兒仕置の注意○改正いろはの事

明治十九年六月十九日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

明治十九年女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自廿一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自卅一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に内規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候尤一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割増を乞ふ

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替券を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年五月廿五日

○文部省令第八號つゞき

第二條　尋常小學校の學科ハ修身讀書作文習字算術体操とす土地の情況に因てハ圖畫唱歌の一科若くハ二科を加ふることを得○第三條　高等小學校の學科ハ修身讀書作文習字算術地理歴史理科圖畫唱歌体操裁縫(女兒)とす土地の情況に因てハ英語農業手工商業の一科若くハ二科を加ふることを得唱歌ハ之を缺くも妨なし○第四條　土地の情況に因てハ小學校に温習科を設け六箇月以上十二箇月以内兒童をして既修の學科を温習し且之を補修せしむることを得但尋常小學校に於てハ修業年限の内にて之を設くべし○第五條　尋常小學校に於てハ兒童の數八十人以下高等小學校に於てハ六十人以下ハ教員一人を以て之を教授することを得○第六條　小學校に於て教員二人を置くときハ二學級を設くへし兒童の數百二十人を超るときハ三學級となすへし但教員三人以上を置くときハ本文に準して學級を設くへし○第七條　小學校ハ一箇年内凡八週間及日曜日大祭日祝日ハ休業すへし但土曜日ハ午後休業することを得○第八條　小學校の授業時間ハ毎日凡五時とす○第九條　各學科の毎週授業時間凡左の如し

	尋常小學科	高等小學科
修身	一時三十分	一時三十分
讀書作文習字	十四時	十時
算術	六時	六時
地理歴史		四時
理科		二時
圖畫		二時
唱歌體操	六時	五時
裁縫		二時乃至六時

(以下次號)

◎女學叢誌

○夫婦の關係　(第二十五號に接く)

野蠻未開の社會にありてハ文明諸國において男女の關係を規則だつるがごとき思想とてハ更らにあれなきのみならず大にこれと相反することありてその例甚ハだ多く一々余輩をしてその汚風穢俗に驚かしむといへども我が社會を顧みるときは益々ろの風俗を改良して清淨潔白の社會たらんことを望むの念いよ／＼急ならざるを得ざるなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

未開の國は猶ほ更ら半開の國にありても珍客を饗應するに幾人にてもそのとき限りの妻女を供するの俗ありと見えマッナ人の中にて大家と唱へらるゝものは幾人にても隨意に數多の妻女を持ち居り貴客を饗することあるときはその中にて最も美なるものを選びて客に與ふるの俗ありまたエスキモー人南北アメリカ土人ポリチシヤ人東西の黒奴アラビヤ人アビシニヤ人カファル人モンゴル人トッキ人等もかくのごとく己の妻あるひは娘を客に與ふるの俗ありと云ひブッシュ人の妻たるものはその夫の許可を得るに於ては何れの所へ行き何人と交を結ぶも勝手次第なりと云ひまたグリーンランドのエスキモー人種の中にては己が妻女を心持ちよく友人に放任して更らに顧るところなきものは最良且つ高尚の人なりと社會へ尊ばるるといふまた情を溷くことを恥とせざるの俗あるもの殊に多くあるひはこれを恥とせざるのみならず反て榮譽とするの俗あるに至るといふコンゴーのベンゲラ族の婦人は婚姻前において必ずこの汚行をなしメキシコ土人はその娘の婚姻すべきころに至りたるときは婚姻の仕度料を得んが爲めに兩親より強てこれを爲さしむることありと云ひあるひはこれを以て婚姻の式となすの俗ありて甚だしきに至りては中央アメリカの土人中にはこれを恥ざるのみならず萬一未通の婦人を娶るときはその男子は大にこれを恥て不幸不運なるものとなせるよしまた金銭を以て妻を購ふの俗もその例甚だ多くコロムビヤのシャシュップ人の中にては娘を人の妻とするに無代價にて與ふることあるときは一門中最大の恥辱なりとなしカリフォルニヤのモドック人中にもこれと均しき俗ありて無代價の婦人の産みたる子はその社會にてこれを賤しむこと私生の子よりも甚だしと云ひ親屬相婚するの習俗あるものもまた少なからずしてチペウエイ人カディアック人カリ人ヴェダ人等みな親子兄弟相婚するの風習ありと云ふ扨てまた家族の成り立ちに就て婚姻の種類を擧ぐるときは一婦にして同時に數人の夫を持つの俗あるものはフューシア人のごとき野蠻人種のみにあらずして少し進みたるセイロンあるひはマラバーおよびチベット等へ於ける人民にもまたこの習俗ありと云ひこれと相反せる一夫多妻の習俗は蕃族あるひは半開國に行はるゝのみならず文明人種と呼ばるゝ中にもまたこの風俗ありて現に米國人中モルモン宗徒のごときは公然一夫多妻の婚姻を行ふものにしてこれ記者の米國にありし日に實見せしところなり

以上述ぶるところは諸蕃族中に行はるゝ古今の風俗を蒐集し

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

以てその男女の關係を示したるものにてこれを我が邦のことに比較ぶるときはかく甚しく野蠻なりとはいふべからざるもまた以て大に反省するところなくんばあらざるなり原來文明諸國といへどもまたかゝる野蠻の有様より進化し來りたるものなりとはいへ今日にして誰か斯のごとき蕃族と共に伍をなすを屑しとする者あらんやされば是より進で我が邦男女の關係を改良するの方法に論及せんと欲すれども男女の關係は家族の關係の基く所にして家族の關係は又最も社會風俗の改良に關する所なれば輕々しく之を論じ去るを好まず暫く筆をこゝに止め他日を以て讀者に質す所あらんと欲するなり(完)

◎中外新報

○番能御催　青山御所にては去る十四日午前九時三十分より番能を催はさせられしやに承はる

○東京教育博物館學術講義　東京教育博物館に於て開設せる學術講義本年第一期(一月より五月に至る)の科目地文學化學は去月廿九日の會を以て終結し第二期(九月より十二月に至る)の講義は植物學物理學(熱學の部)の二科と定め植物學の講義を理科大學教授矢田部良吉氏に物理學を第一高等中學校教諭村岡範爲馳氏に囑したり又今回該講義の規則は左の如く改定す○第一條講義は各科專門の學士に囑し本館陳列の器械標品等を使用し務て學理及實事を講明せしむるものとす○第二條講義は二期に分つ第一期は毎年一月に起り五月に終り第二期は九月に始り十二月に終る(但講義は毎月二回以上とす)○第三條聽講者は當分小學校及尋常中學師範學校教員に限るべし○第四條聽講の許可を得んとする者は職名年齡住所を詳記し其管轄廳を經由して願出べし○第五條聽講許可の報知を得たるときは左の聽講料を一時に前納すべし然るときは聽講券を交付するものとす一科目一期分一人金五十錢○第六條聽講券は毎講義の節必ず持參すべし之を他人に貸與するを得ず○第七條講義の題目並に開會の時日は豫め聽講者に通知すべし○第八條講師は講明したる事理を聽講者に試問することあり其答の可なるものには講義の終結したる後に於て講義聽了せし旨の證明書を交付すべし(本月十日官報)

○講義室　神田一ツ橋外なる舊大學理學部の講義室は今度東京商業學校の附屬となして其講義室に充ふるゝと云ふ

○講習委員　府廳にては去十一日府下各小學校の教員五十八名を講習委員に命ぜられたり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○裁縫婦の決議　米國大統領クリヴランド氏のバツフワロー府なるフランキー、フオルソム孃と結婚さるゝとの事ハ曾て本紙にも記載せし處なるが紐育なるウオールド新聞ハ佛京巴里よりの電報を得て仝孃が去四月中母幷ニ從弟と共に巴里に赴き嫁入の道具等を買整ふるとの事を掲載せしかば忽ちバツフワローの裁縫組合婦人二百名餘の知る所となり會議を開きて大略左の如くに議決したりと外國よりの或る報に見ゆ

今やグロバー、クリヴランド氏ハフランキー、フオルソム孃と結婚せんとす而して両氏ハ當府の人なれば元より當府の殖産事業に就てハ其利害を感ずべき筈なれば當會に於てハフオルソム孃が我か米國就中バツフワローに於て歐洲にも立優る所の嫁入道具を得らるべきに態々之を措て歐洲に要るハ共所業實に排斥せざるを得す且クリヴランド氏が若しも巴里に於て他が衣類等新調するとを見合せざるに於てハ我々力の有ん限りハ仝氏が向後に於ける政治上の願望を沮絶して遂げ得ざらしむるとに努むべし云々

○帝國大學教師增聘　帝國大學にてハ今度新に獨逸國より教師八名を增聘さるゝとに決せられしやに聞く

○繪畫談話會　東洋繪畫會にてハ去八日伊達副總裁以下會員一同會合せられ談話會を開きたる末英人コンデル獨國人ボツクマン氏等の演說ありしと云ふ

○夫人交際會　築地明石町の米國公使館に於て去る九日午後より夫人交際會を開かれ各國公使の夫人ハ勿論我が諸大臣の夫人等を招待されし由

○沖繩小學　沖繩縣下那覇にてハ仝地役所長今西氏の盡力ニよて此の程高等小學外尋常小學三校を設立せられ去る五月二十八日を以て開校式を擧行されしと云へり

○大日本教育會　去十三日一ツ橋外なる第一高等中學校内の講義室に於て大日本教育會の常集會を開かれしが當日ハ大森惟中氏の(文章の變遷)黒田定治氏の(讀方教授法)日下部三之介氏の(文部省令第八號を讀む)等の演說あり又マイエツト氏が兒童に錢を持たしむるの可否と云ふ演說ハ木場貞長氏が口譯せられ討論等もこれありし趣

○吉益氏　舊開拓使の女生徒にして先年米國に留學されたる吉益亮子ハ此程京橋區南鍋町ニ於て女子の英學教授所を開かれしとの事なり

○銀行專修科移轉　此程東京商業學校に附屬せしめられし神田錦町の銀行專修科ハ去る十日新築落成したるを以て仝校内

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の教場に移轉したる由

○閣龍の生地　亞米利加洲の發見者たるクリストツフ、コロンブスの生地ハ今日に至るまで未だ分明ならざりしが今四月廿八日巴里發の電報に據れバ佛國コルス洲(地中海中の一嶋)の考古學者ドクトル、ガッサノヴァーは古代の記錄書中に於てコロンブスはコルス嶋カルヴヰー府に生れ後伊太利國ジエース府に移住せし者なることを發見せしに依り共和國大統領ハ直に其書類の撿査を命し公正なる旨の確証を得たるを以て此程カルヴヰー府廳に許すに公然亞米利加洲の發見の紀念祭を擧行するを以てせり因て同府に於てハ來る五月廿三日此祭典を擧行せる筈にしてクリストツフ、コロンブスの生れたる家屋にハ邑廳の注意を以て種々の銘文を掲出する筈なりと云ふ(本年五月五日每週桑港クーリエー)(本年六月十日官報)

○夫人會　仝會ハ海軍々醫方の夫人に成立ものにて每月一回宛開かるゝ由なるが會費ハ三十錢にて積立の上會員中の死亡或ハ罹災者へ贈る目的にて已に其第一回を一昨々日芝成醫會に於て開かれ高木軍醫総監の演説等もありたる由

◎學藝叢談

○カリー氏幼兒教育學

〔第十節〕幼兒教育の原則に於て心の活動は身体の活動に比例すること　腦はまた心の自動により感動を起すものにて能く〳〵その順序に意を用ゐずんばあるべからず心は身體の發育に隨て活動を起しその活動の順序と方法とは自然のものなるがゆゑに決してこれを分つこと能はず若しこれを離たんとせば大害を生ずるものなりされバ幼稚學校に於て小兒の天性に反し非常の反應力を起さしめあまりに壓制して成人したるものゝ讀書により知識を廣むるがごとく早く知識を得せしめんと欲しその腦力の度に過ぎたる事を課するときはその結果は恰も身体上强力の度に過ぎたる運動は身体上の機關を害すると同じく必ず心およびその機關たる腦を害せずんばあらざるなり腦はかゝる非常なる心の動きに堪ふること能はずして困難を生ずるものなれば假ひこれに堪ふるがごとく見ゆるといへどもその實は決て然らざるものにてかの小兒は暖室の内に生じたる植物の不健康にして且つ早成たるがごときなりかゝる教育法によるときは現時の身体上の害は疾病を醸し將來に心に受くるところの害は之を遲鈍ならしむることを免かれず小兒をして早成ならしむるは成人の後ちに卓越せしむる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の道にあらずして心ろと生活上との双方の光輝は成人の年齢に達する前に已に消滅するものなりかく壓制法を行ひたる結果は廣く外面に顯はるゝがごときものにあらざるなり

（以下次號）

○理學一班

〔第七節〕天然の原因と結果の連鎖及び諸事物に人力の及ばざること甚だ多き事　まへに說き明したるごとく天然物の中には人の自由になるものありと雖ともその中の多く即ち天然の原因と結果との連鎖および諸事物は人の自由となすこと能はざるもの少なからずして大陽は自ら出沒し月星ハ自ら大空に運行し好天氣の日あれば暴風雨あるひは熱さ寒さの天氣あり大風の吹きあらしたる海上も箒にて掃きたるがごとく鏡の面に異ならざる温和の海面となり數限りもなき植物動物も少しも人の關捗することなくして自ら生じてはまた枯れ死してはまた生じ颶風の爲めに毀はるゝ所あれば地震あるひは火山の破烈のために復がへるところあり作物豊年のところあればまた旱魃の爲めに飢饉に苦むところあり總てかくのごときことゞもは人力を以て如何ともなすこと能はずたゞ天然自然の力に任しおくの外はあらざるなり

（以下次號）

◎英語の栞　附羅馬字ばなし

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀十分㊁より㊂より多く（は）㊃餘り㊄多く㊅ある

（乙）㊀二つの㊁惡（よ）㊂就て㊃最も少き（を）㊄選べ

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

（甲）More than enough is too much.
㊂ ㊁ ㊀ ㊅ ㊃ ㊄

〔意譯〕充分より多きハ多きに過ぐ

（乙）Of two evils, choose the least.
㊂ ㊀ ㊁ ㊄ ㊃

〔意譯〕二つの惡事あらば其中最も惡の少なきを選ぶべし

KWAJI WA CHIKAKI NI SIKAZU.

Kwaji ari tote hanshō wo uchikereba, idete sono hōgaku wo miru ni, masasiku sinrui no kata ni atareri. Isogi hase-yukuni, michi tōkusite, tochū nite, sintai tomoni tukaretari. Tansokusite iwaku :— ā! *kwaji wa chikai ga yoi.* Nanto hito wo katte wo iu mono de-wa arimasen ka ?

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○漢陽の節婦王氏　（表畫傳）

清國王氏の婦人には何ぞそれ貞節世の人を感せしむるの人多きやさきには鍾祥の王氏ありて今また漢陽に仝姓の節婦を出す王氏は實に貞節の富家と謂ふべし抑も漢陽王氏の良人何某と云へるは家頗る貧しく人に傭れて舟乘を生業とせし者なりしが夫婦のなかに一男一女を擧け其の子のいまだ幼かりしころ一日舟を操りて江を渡らんとせしに一陣の暴風俄然吹き起りて其の舟を覆へし何某は舟乘の事なれば豫て水練も心得居しかど餘りに風烈しく波の高かりし爲め遂に底の藻屑と消え失せしかば妻の歎きは大方ならず合巹の其夜より死なば一所と語ひし其私語も今はむやかたわれ月の影淒く遺留の子供を見るにつけ涙の雨のみふりしきればせめては死せし跡なりとも訪ねて見ばやと健氣にも二人の子供の手を牽きつ背に負ひつゝ遙々と其江に到り最後の跡はこゝ等あたりにありけるかと泣く／＼搜す折こそあれ天も其貞節に感じやしけん遠く流れも行かずして屍は水面に浮みありやがて波打ち際に打寄せたれば他所の見る目も憚らず屍枕に聲枯るゝまで泣きつゝ口説つなしけるを近郷の人々不愍に思ひ夫々金を醵して其の屍を斂め呉れしかば氏はいたくも欣びて自ら敝れし衣裳を脱ぎ捨土を裹みて這を盛りわけをき墳となせしより兩手の爪は殆んど禿するに至りしと云ふ己にして親戚の甲乙は氏の年倘は若く當時ころは堅く守りて其操を失はざれ逝る者は日々に忘るの喩もあれば他日まさなき行ひも出來るあらんと他に再縁の事を説きたりしも氏は二十餘歳にして良人に別れいまだ老朽しと云ふ年ならねば未亡人を立つるはまことに苦しけれども今我れ他に嫁かば二人の子供はそれ如何にして育成べきぞ世には連子と云ふもあれど眞成の敎育を受けしめて夫の靈を地下に慰めんには我れ節を守り家にありてこそ然らんに强て我か志を奪はんとせらるゝはこれ我れに死せよと云はるゝ事かと云つて自害もせんず狀勢なれば誰しも二度と此事を云出る者なかりしが氏はこれより貧苦の中に二人の子供を育上げ師を選びて學ばするなどいと心を須たりしかば其子供は孰も至孝にして賢名あり曩に再縁を勸めたる親戚等は皆な其苦節を守りて敎養に力を尽したるに慚ちて後には何事の生ずるにも先づ氏に計議して而る後可否を決する樣に尊崇せり而して氏は六十餘歳の壽を保ち後に心の卿か遺るとおきに至りて芽

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

出度歿りしは偏に其節を守り敎養に力を盡したるの報徳にてぞありける

○安藤爲定の妻龜子

安藤爲定の妻龜子は丹波國桑田郡千年鄕の產にして其の父を道夢と云ひ親族山田氏は聯歌に堪能なる人にて愛宕山の僧興宇都谷の僧圓立輩と其の名を齊くせしかば道夢も頗ぶる和歌の道に通じ居たり因て龜子も幼きより其の性質敏慧りし爲め父に隨ひて和歌を學ぶに秀吟多く邪がらへ容貌麗はしかりしかば夫の神泉苑に雨を祈りて歌を詠せし小野氏ならずば石山寺に湖を眺めて源氏を綴りし紫式部もよもかくまではと思ふばかり殊に縫裁織紝の事も暗からざれば爲定の母河合氏は婦徳ある人にて早くも之れを聞知り斯ゝる女を迎へて我か子に配せなば我か親たるの義も盡せりとてよく爲定の心をも聞さだめ遂に迎へ取つて媳婦とはなしぬ然れは伉儷の情も至つて厚く姑に仕ふるまゝ孝にして一家殆んど君子の聚りに異ならず幾程もなく二子を產出て爲實爲章と名つけ蝶養花育薰陶怠たらざりしかば二子ともに後來人に仰かるゝの人物となりしと云ふ龜子寬文八年を以て歿す年三十九頗ぶる記憶方に富み古歌を諳記する三千首に及び嘗て禁掖に出入して數々御歌の會に侍りしことありしが後水尾帝并ひに明正帝は辱けなくも龜子を今式部と召されてかの紫式部の才に比し給ひいと渥くも寵遇遊ばされしをもて其の歿るや長子爲實遺歌數首を編て一本となしゝを權大納言源通茂卿之れに題し給ひて今式部家集とは命せられしとなん吁才あれば行ひに乏しく行ひあれば才に乏く才と行と兩ながら完きは世間其れ此の龜子を措て誰ぞや况んや今日の如く女子に敎育なきの當時に於ては實に得難きの賢婦と謂ふべし

○鷲尾經春の妹

往昔元曆元年二月三日の事なりけん源氏三草山の戰ひに道案內者を索めありしに大軍の推行く事なれば人心恟々早くも逃走りて更に人影ありとも見えず然る處ろに一人の小婦逃げ遲れたりけん稚兒二人を負ひ抱へ山路を踰えて走り行くあり先陣の兵士どもがはや追近つくに驚き怖れて抱きたる所の兒を其處に捨て尙はも逃け走るを大將義經は馬を早やめ先路を斥候せんとて先に立れておはせしかば面たり能く其の狀況を見捨られし兒を不憫に思ひて其兒につき徐かに尋ねらるゝやうは只今汝を捨たる婦人は何者ぞ汝が母なるやと稚兒は泣きながら我か母なりと申しければ義經はいたく異しみて其の少婦を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

追捕させ自から問ふて云はるゝにはは汝か背に負たるはこれ兄して捨たる兒は弟なるべし奈何なれば兒を愛憐するに不同あるや却つて弟こそ猶幼少なれば不愍ならずやとおりし時少婦は涙を流しながら今捨たるは我が實子にして負て逃げしは義理ある所の兄の子なり父母に孤れて便なき甥にありければ養育して捨がたく我の子はまたも持たるべしと不愍ながらに捨侍りぬと荅へつれば義經もほと〳〵感涙を催ほし其の少婦の素性を問ひ給へばこれは鷲尾三郎經春と云へるものゝ妹なりとありしかば厚く劬らせて其の宿所に送り頓がて鷲尾を呼び出して郷導にぞ賴まれける且つ三郎に示して云はるゝには昔漢朝にて齊の大將兵を起し魯國へ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

推入りしとき一個の婦人二子を負抱へて逃行けるを齊人逐たりければ魯婦ハ抱きたる子を捨負たる子を連て山中に逃隱る時恰も齊の大將來かゝりて其小兒を愍み其母を尋出して事由を尋ねられしに汝の妹の如く負ふて逃げたるハ義理深き兄の子にて捨たるハ己れの子なりと答たり依て大將ハ軍兵を止め仁ある國を責めてハ軍に利あらずとて本國に歸陣せしかば魯の國君後に之を聞て其婦に絹三千疋を賜しと云へり近世無道なる平家の政にハ似もやらぬ汝が妹の心ざし漢朝の魯婦にも勝れり斯れハ義經も軍を止めたけれども勅命と云ひ兄賴朝の下知なれバ奈何ともし難し又汝の妹に與ふべき物もなければとて天晴の貞女を賞せずば心なきに似たりと鎧一両太刀一腰を取らせられしとぞ世の己れの利のミ得ることに汲々たる婦人達ハ宜しく斯ゝる婦人の行ひをも聊か學び給ふべし但し子を捨るの事だけハ當時と今といさゝか時世の違ひあれば學バずもあれよかし

○和書講義

つれづれ草

栲道守述

第十四段第四節

歌の道のみ。いにしへにかはらぬなんどいふ事もあれど。いざや。今もよみあへる。おなじ詞。歌枕も。むかしの人のよめるハ。さらに同じものにあらず。やすくすなほにして。すがたもきよげに。あはれふかくみゆ

〔全旨〕歌の道ばかりハ。むかしにかはらぬと。西行ハよみたれど。猶いにしへにかはるとの意なり。

〔語釋〕歌の道のみ云ゝ　新古今集云。寂蓮法師。人々すゝめて。百首の歌をよませ侍りけるに。いなびて。くまのにまうでける道にて。夢に何事もおとろへゆけど。此道こそ末の世にも。かはらぬ物にハあれ。なほ此歌よむべきよし　別當湛快。三位俊成にまうすと見て。驚きながら。此歌をいそぎよみ出して。つかはしけるおくに。かきつけ侍りける。西行法師。末の世もこのなさけのみはかはらじと見し夢なくばよそにきかまし」この歌の意也。○いざや　イヤモウと云ふ程の語なり○歌枕　名所の歌を。あつめたるをもいへど。こゝハ。詞のつゞけ。枕詞などを云ふなり

〔講解〕西行が歌の道ばかりハ。昔にかはらずと。いひた

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ることもあれど。いやはや。今の世中にても。よみあへる詞。また歌枕なども。むかしの人のよめるは。巧にして。今とは同しからず。そのさまのびやかにして。くだ〳〵しからず。よみなしも。優美して。餘情ふかしとなり。

第十四段第五節

梁塵秘抄の。郢曲の詞こそ。またあはれなる事はおほかんめれ。むかしの人は。たゞいかに。いひすてたることぐさも。皆いみじく。きこゆるにや

〔全旨〕上古の人の詞は。いひすてたる事も。よくきこゆるにやとの心をいひて。彌々昔をしたへる也。

〔語釋〕梁塵秘抄　神樂催馬樂の。うたひものを集めたる抄也。この神樂歌。並に催馬樂歌は。万葉集に次べき。めでたき歌なり。此歌の精注は。神樂催馬樂入綾とて六冊あり披見るべし。○郢曲　文選に有歌於郢中者。云々。郢は楚國の都なり。是より歌謠を郢曲といへり。

〔講解〕梁塵秘抄にある。神樂催馬樂のうたひものゝ詞こそ。又おもしろく、めでたき事も澤山ならん。昔の人は。たゞ假初の。口すさびにいひすてたる詞も。皆宜敷く聞きなさるゝとの意なり。

◎稗史小説

○英國小説剪燈情話　第二回續

少佳人憾得良偶　寒教師苦纏懸情

一言以つて主人に稟請すべき事ありとて進み來りし人はこれ原來別人ならず即ち非利の從者にして非利が成親のとき証人となり已に這の事を知る者なれば今非利が起程せんとするに當りて特更に來りて云ふ所あらんとするは蓋し深き意のありて存せるに因れり然れば非利ははやくも他が心底を知り且つ以爲やうは今他をして遠くも家鄕を立去らしめなば一には以つて他の口より世間に此事の洩る恐れなければ人の噂を蒙ることを杜ぎ二には他が這事他言するなど制し置し事を挾んで彼是需索などいつまでも面倒を生ずるの憂を免かるべしとて乃ち云ふ汝の云ふ所は我また聞かいでも宜し却つて我れより汝に告ることありとて遂に懇々敎諭して銀千餘圓を與へ船に乘りて遠く博密城に赴かしめ安居樂業の道をば得せしめたり却て說く非利夫妻は馬車已に準備し來りたれば其れに打乘りて回り去らんとするに排士は門前まで送り出來れり時恰かも

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

天色晴朗片雲を見ず万物熙々然として快樂の意を含有せざるハなし非利ハ新人と手を携へて車に登る方に是れ万種の愁煩早く已に飛び去て九霄雲外に入了す知るべし芳齢十六春の女子正に是れ芳心動かんと欲するの時に當りて非利の甜言蜜語力を極めて温存するに遇ひ端なくも愁を變して喜となし悶を改めて歡となす然れども他ハ平生未た曾つてかやうなる境象に遭遇してとあらざれば覺えずも桃花臉上に一種の嬌羞を泛べ出しその風采人をして實に魂を飛ばし肉を消さしめんとすまた非利ハ臉上別に慷慨爽朗なるの氣象を存じ齊しく笑顔をつくりて車の上に坐し遂に排士に向つて手を擧けつ然らば老兄これよりお別れ申せば隨分國家の爲めに珍重自愛せられよと佳人も亦隨分堅固でと暇乞しつるを排士も一々に挨拶畢れば車前に立ちし御者ハ系鞭ふり颺げて叱一叱潑矢と打てば馬は兩つの耳を竪て四蹄を捲きて塵蹶たて電を逐ひ風を趁ふてぞ走り去りぬ知らずこれよりの後排士の事につきまた如何の說話かある其ハ次號に於て譯出せん

◎女紅

○八丈縞織やう

八丈縞を織るにハ凡そ眞綿白五十目をほそく糸にひき之れを一反の糸とし經の糸ハかせにかけ海羅に姫糊を加へたるをばこれにつくるなり縞筋の糸ハ黒く染めつねの木綿をへる如くにへて機にあぐべし緯の糸ハ糊をつけず最ともよりのかゝらざるを宜しとす經と緯との糸目のつもりも凡ろ木綿のつもりに同うすべし糸の太さと細さをかんがふべし地の色ハ黄になりとも鳶色になりとも其の好みに從ひて染むべしつねの無地のつむぎを織るも右の如し織るときハこしを強く張り梭もつよくうつべしかくの如くせざれハ地つまずよみハ十三四にあすべし

○白髮を拔き再び生ざる法

白髮を拔きたるあとへ生薑のしぼり汁をぬり置くときハ決して再び白髮の生ずることなく生ずるものハ悉く黒髮なり

○夏季米に虫の生せざる法

夏季に至れば米にハ至て虫の生じ易きものなるがこれを生せしめざるにハ河柳の枝を六七寸ほど宛に切り一俵の米に二三本位の割合に插し置けバ虫生することなし米櫃中にある米ならばこれを米の中に入れ置けバ同樣虫生ずるの憂なし

○酢醬油の黴を防ぐ法

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

酢醤油の黴るには炒鹽少量を入れ置けば夏季と雖も黴ることなし最も已に黴て居るものは其黴を能く取除きて後入るべし

〇口中の臭みを除く法

女にて口中の臭きは勿論男子とてもまた人に嫌はるゝものなりされば口中臭氣あるの人は男女に係らず水一合に石炭酸二十滴アルコール半勺を混和し置き毛の楊枝にて能く磨きたる後其の水をもて含嗽すること毎日三四度怠たりなければ齒齦しまりて臭氣を除き去ると奇妙なり試み給ふべし

〇練珊瑚珠の秘傳法

練物の珊瑚珠も其の用ゆる所の人柄によりては眞の珊瑚とも見ゆるものにて決して練物とて卑下するに及ばぬ程に美麗なり而して其を製するの法は先づ象牙の粉を羽二重の絹ぶるひにてよくふるひこれを掛目三匁となし又天艸砥を鐵槌にて打くだき粉となしてまた右の篩ひにかけ一匁となし光明朱三匁辰砂三匁と混和して極上の晶膠をうすくたき海蘿の煑たるものと等分に合せしうへまた右の篩にかけこれを練合せて根がけかんざし或は緒じめなど其の形の大きさに丸め柳の木を細く凡紐の通る程の大きさに丸く削り胡桃の油をつけて其練玉をつき通し五十日ほど乾かしをきて後しめしたる木賊をもてよくみがき其の上を椋の葉にて再びみがきながら手のうちにてまろめるやうになせばすきとほるやうに艶よくなれり坊間にて賣捌くものは斯様に念を入れざるゆゑに忽ち用ひられさるやうに相成れども是は決して然る憂ひなく本珊瑚にもおさ〳〵おとらすと云えり

〇澁の衣服に付たるを落す法

衣服等に澁のつきたるには白砂糖をよくもみつけて洗濯すれば忽ち奇麗に落るとの事なり

◎御伽草

〇貧富同日談

東京の目貫とも云ふ日本橋通り町邊に何の何兵衛と云へる一富翁あり又た其友に何の何右衛門と呼べる貧乏人ありしが以前は此の男も身代今の如くにまではあらざりしかば其頃の交際にて今貧乏するとて其富翁に金を借るでもなしそれば富翁も吝な根性の者なれど相變らす交際居れり或一日の事なりけん何右衛門は久々にて何兵衛の家を訪問れたりしに何兵衛はいと誇りがに「何右衛門さんイヤモウ暫く逢なかつたが私はいつからお前に土藏の裏を見せやうと思つて居たなれど折が

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

無いので今日まで見せなかつたがお前の家がまだ歴としてござるところから今日までに十万圓の身代に致しやした誠に金と云ふものハ殖せバ殖るものでありますそれに引替へお前ハ那の身代をたゝんでから今ハ見すぼらしき容態をして居らるゝ樣だが些とも工面ハ直りませぬか我ハ友達だけよそれはかりいつも氣にして居りやしたと云ハれて何右衛門ハこいつ氣にして居るとハ眞赤な虚言にて其實ハ己れの富よ誇り人を見さげて云ふと思へば少し小癪に障り「イヤモウ難有ござりやす實ハ私も那れから是非元の身代に復さねばならぬと思ひて種々に勞碌ヤツト此頃十万圓までの身代になりやしたが私の那の貧乏から十万圓までになしたのから見れバお前の十万圓ハ餘り不思議でもありません何兵衛ハ驚きたる面色して「左樣ならばお前十万圓ハ何處に置てござるかまた左程殖たらバ其の見苦しき容態ハせずともよさそうなにそれハ多分虚言云ハつしやるでござらうがな何右衛門ハ哈々と打ち笑つて「イヤ實バ私一文も持たないが併しお前のやうに有てもそれを使ハなければ有るも無用なれば私と同樣でハないかそれで私も十万圓の身代あると同し格で只今のやうよ答へやしたと聞て何兵衛ハ一句もなく只た禿頭を播くばかり

評金錢天下融通物也積而不使用之與石何擇可有亦同無何右衛門言是守錢奴輩一大針砭

○燈謎

風裸体となり來りて水枯れたる江のほとりを吹けば則ち天際に美麗の彩色を現出す

蚤馬を整して驚かせば人動いて恐れを抱く

○第廿五號考物解當者ハ左の如し(かしは)栃木塙竹姐本所山下兼姐靜岡弓削濱姐東京石渡龜姐同小出貞姐栃木多田末智姐大阪山田末姐茨城津田德姐新潟淺香歲姐芝吉村玉姐岩手森山雪姐芝長野春姐廿四號西洋隱語(たこ)雲州松江佐田秋姐小出貞姐石渡龜姐

◎古今雜話

○日本女禮のあらまし

起居進退の部つゞき

〔主客心得〕同輩以上の客來る時ハ主人たる者送迎の禮あるべし而して其客の着席ハ主人よりも目うへの者ならば座敷の上座同輩ならば對座下輩ならば下座に坐すべし

〔簾出入の心得〕簾捲わけて有るときハ總角に頭の觸らざる樣出入すへし又垂下あるときハ内の方へ入らんにハ柱の際にて下を向ふへ推して入るべし外へ出るにハ手前の方へ引て

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

出づべし下より捲上ては出入せぬものなり最もこの内簾と違ひ覆ひ簾なる時は出入ともに外の方へ開くべし

〔扇を使用する心得〕 暑しとて猥に貴人の前にては使用すべからず若し止むを得ず使用するには四五間もひらきて左の手を突きうつ向きて能き程に使用すべし

〔幕を出入する心得〕 幕を出入るには其幕の際に蹲踞ひて下を両の手に持ち頭のあたりまで捲き上て向ふの方へ二足三足進み出左の手をもて幕の裾を我が後の方へ引卸すへし最も決して紋のある下を出入すへからず

行酒飲食の部

〔下輩へ盃を指す心得〕 下輩には盃の露をきるに及ばず臺にのせて其の方に向け直し両手にて縁の所を持進むへし倘は軽きものへは隻手にて推出して可なり

〔同輩へ盃を指す心得〕 互に座に出て盃三方を取扱ふものなり指す時は下を捨て（下を捨るとは盃の中に凝濁あるを捨るを云ふ）右左と露をきり其の三方に載せて取直し三方の腰の中程に両手をかけて少し進むるなり

〔上輩へ盃を返進する心得〕 上輩へは此方より決して指すものにあらず返盃せよと云はるゝ時両手にて盃を持ち下を捨て左右の拇指にて右左右と三度露を切りて酌人に渡すへし酌人は其盃を上輩の前に進め上輩盃を取上たる時謹んで一禮すべし尤も初め盃を貰ひし時辞譲の上自ら盃を取りおろさば両手にて三方を引寄せ上輩の方に向ひ右手にて其盃を取り之を左の手に移し右の手にて三方を右側に置き戴くべし斯様ある時は返盃にも自ら盃を三方にのせて酌人に托そへし又一旦次の間に下り再應辞退の上返盃するは至極の敬禮とぞ（以下次號）

〇置古し

俗間に物をたくはへ置て久しくなれるを置古しといふこれはと古き言にて万葉集に

はしてるや浪波すか笠をきふるし後は誰かきんかさならなくにとありこれにても知るべし

〇金言摘錄

千金之家其子不仁　韓非子

不レ知而言フ不智知テ而不レ言ハ不忠　同上

玉在レ山而草木潤ヒ淵生シ珠ヲ而岸不レ枯レ　淮南子

蠹啄テ剖ニキ梁柱ヲ蟁虻走ニシム牛羊ヲ　同上

善人ノ富謂ニ之ヲ賞ト淫人ノ富謂ニ之ヲ殃ト　春秋左氏傳

爲レセハ富ヲ不レ仁爲レセハ仁ヲ不レ富　孟子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎群芳詞苑

○谿間卯花　東京　中野和子

谿間なる卯の花見れハ消のこるこその雪かとあやまたれける

○白雨　駿州　江南　香生

沛然飛白雨。風趣不尋常。竹逕殘棋潤。松窓午枕涼。愛看蕉躍璧。新覩土生香。更洗炎氣去。乱蟬噪夕陽。

評　清涼可掬又云白雨景寫得絶妙

○詠史　高橋　古溪

蚌鷸息爭還遠征。勤王宿志老難成。半生孤負京華月。過雁秋寒七尾城。

○春雨　村山　佛山

橋前橋後草新肥。籬北籬南梅欲飛。日永鶯兒倦無語。一園春雨滴金衣。

○伯夷叩馬圖　源　邦美

黄鉞風生鐵馬飛。獨憐義士媿戎衣。華山佗日春烟緑。不及首陽岩畔薇。

○閨秀新品

○待郭公　東京　熊谷　玉子

今宵こそ鳴くかとまてハ時鳥ねもせて人をあかさせにけり

○杜若　狂句　越後　吉田　金子

花賣におこされて氣のあきつばた

川柳のたねにハをしきかきつばた

○惜春　濱松　矢部　革子

紛紅飛白管吟愁。又見竹牙過掩頭。有限春光無限恨。東風盡日倚山樓

○廿四號及廿五號數學答式

$0,5:/=8:x$

$x=\frac{1\times8}{5}=16$

拾六圓

東京　小山貞子
同　石渡龜子
同　富田幸子

$30:12=56:x$

$x=\frac{12\times56}{30}=22\frac{2}{5}$

二十二日五分の二

濱松　矢部革子
東京　富田幸子

○新題

和歌(瞿麥)

俳句(梅雨)

詩(枕上聞子規)五七言律隨意

文(弔花文)和漢文隨意片假名交り三百字を限る

數學題

烟草一斤の價九錢と十一錢と十四錢のものあり今之を混和せ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て一斤十二錢に賣る時ハ各幾斤を混和して可なるや

○寄書

○幼兒仕置方の注意　宮城縣白石　本城よし子

一筆申上まゐらせ候さてとや幼兒の罪を罰するに是々の事柄を覺えぬ中ハ罪をゆるさぬと申して其罰に書籍抔を用ゐる事ハ世間に間々ある習に候やう覺え候へともこれ至てよろしからぬ事にて學問を好むの心を妨け却て嫌惡するの情を起さしむる事の由或人より承はり及ひ候成程其ハ觀念伴生とやら申候作用にて幼兒が罰せらるゝヿを嫌ふの餘り自然傍よ附添ふ書籍までも嫌ふに至るハ俚諺に所謂僧侶を憎めハ袈裟までの道理にこれあり候就てハ家庭の敎育上直接の關係を有する妾どもにハ先つ第一にこれ等の事より注意致さねバ相成らぬ事に御座候併し斯程の事ハ世の才識高き君達にハ固より御承知の事に可有之候へども老婆心迄よ貴社よ投じぬ遼東の白豕とやら御一笑下さるべく候かしこ

○改正いろはの事　大阪　菟道春千代

渡邊翁ぬしのものせられさる天地歌を見侍るに其音韻の正しきハ云ふまでもなくめでたくして懇切なるハ生立そむる童女等が手習の緒に用ゆるにハいとたのもしき哥と云ふべし倘これよ就て思ひ出さるゝヿハ夫の本居宣長大人か詠給ひし「あめふれば」の歌ハ大人が從來のいろはを不祥く思ひ給ひて疾く此歌を作り小童等が手習の初めに習ハしめむと態々櫻木に彫りて同し志の人々に頒ち給ひたるとのあるハ世の人が能く知り給ふ處なるへきも此程圖らすも本箱の底より其が石摺の出たれば人皆の參考までにと思ひ侍るまゝうつして貴社に寄すあハれ余白もあらバ掲け給へと云爾

あめふれは。ゐせきをこゆる。みつわけて。やすくもろひと。
おりたちうゑし。むらなへ。そのいねよ。まほにさかえぬ。

○正誤第廿六號中外新報欄内十二項二行目ウヰソ氏ハウヰソン氏同十七項四行目寄なるハ奇なる誤同項十一行目(祖)の下(毋)字を脱す同項十七行目陣列ハ陳列列女傳欄内英王妃傳中十行目アラスタストサソトヒールハアフスタストサントヒール同阿辰傳中廿三行目至るハ至り同樵夫妻傳中廿九行目隨されハ墮され同稗史小說欄内廿六行目謝するをもハ謝するとも同卅二行目忘るハ恐る同女紅欄内炭火の項中一行目働は動同群芳詞苑欄内玉山詩中翮ハ翮當ハ掌同善庵詩中趁ハ趂同溝口氏歌中しとりハことりの誤

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

岩神正矣君編輯「ワシントン」「グランド」二氏石版肖像入

米國前大統領 **虞蘭將軍全傳** 平假名附前同斷 洋綴美製全一册定價卅五錢

○世間共形小にして貴重なる者あり實玉是れ也此書小册子と雖ども將軍か一生の經歷功業を羅述して簡にして要を得たり故に一たび出板して忽ち初板數千部を賣盡し未タ二月ならずして**再版**の榮を得たり凡そ將軍か幼時、出身、浮沈、南北戰爭の紀事軍略、大統領の當撰、政略、失策、世界漫遊、將軍家の落魄并遠逝葬式に至るまで將軍か自著中より抄出せる上に他の近代史と參考して輯錄せる者なれば將軍の一代を知らんと欲せば之に加る實玉なかるん尚は初版に倍して愛顧を乞ふ

● 西森武城君編輯

生徒必携 **作文獨稽古** 鼇頭いろは分字類

和製中本全一册 定價貳拾貳錢

● 七條峰太郎君編輯

女子必携 **女子作文楷梯** 鼇頭作文要用字類

和製中本全一册 定價貳拾貳錢

從前小學校の生徒に文を敎ゆる男女一樣なるの爲め女子の爲めに不都合多きハ敎育家の常に患ふる所也然れ共女子作文を敎ゆる好書なきか爲めに只た患ふるのミにて之を濟ふ能はず今此書ハ專ら女生徒に婉曲にして通ず易き作文を敎へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲めに編著せるものにて作文獨稽古と共に小學敎員及び生徒諸君の錦囊たる書なり

堀内正路著 細圖入白紙摺美本

○千家正流 **茶の湯客の心得再版** 全一册

舊定價四拾錢 改正廉價金卅五錢

此書ハ千家直傳の免許を受たる堀内大人の新著にして先きに出版致候處江湖の喝采を博し幸いに數千部を賣り盡し今般**再版**仕廉價を以て發賣致し候へば苟も茶道を好む諸君ハ一本を備へて千家の奧意を學ぶの捷徑に供し給ふべし

發兌 九春堂

賣捌 鐵文舎

教育毎週新報

● 第壹號六月廿日發兌壹部定價金三錢見本代金郵券代用不苦

諸君澤山詩文ノ御投吟ヲ乞フ

發行所 東京本所區緑町壹丁目拾七番地 **教育毎週新報**

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

發行所 **積文舎**

持主兼編輯人 松本義弘

印刷人 初鹿野鎌五郎

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 **修正堂**

同 神田區淡路町 同 **巖々堂**

同 神田區佐柄町廿一番地 同 **東海堂**

同 神田區雉子町 團々社

同 日本橋區新葭町 厇明堂

同 牛込肴町十七番地 活神堂

同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂

同 蠣売町貳丁目 信文堂

同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂關田

同 同 本郷春木町貳丁目 解明堂

同 牛込區牛込神樂町 積善舎

大坂府備後町四丁目 岡嶋支店

千葉縣千葉本町一丁目 立巽舎

山梨縣甲府常盤町 内藤傳右工門

藝州廣嶋大手町一丁目 早速社

江州彦根西内大工町 新々堂

陸前國仙台大町四丁目 木村文助

越後國長岡裏壹之町 大橋書房

神奈川縣下横須賀旭町 大塚部喜

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY